

## 群馬県上野村 過疎地での活性化の取り組み

(株)上野振興公社 瀧澤延匡

群馬県の最西南端に位置する上野村。埼玉県秩父地方、長野県佐久地方と接する中山間地です。村の面積の96%が森林で、村の中央には平成の名水百選（環境省）に認定されている清流神流川が流れます。

自然のめぐみあふれる上野村は東京から車で約2時間30分という立地で、春から秋にかけては、群馬県内をはじめ東京大都市圏を中心に年間約20万人が関東一の鍾乳洞不二洞や全国有数の吊り橋上野スカイブリッジ、温泉や自然体験に訪れる観光の村という側面ももっています。

### 村が過疎化した原因

上野村は現在人口1,324人、621世帯（平成26年11月1日現在）、高齢化率43%の過疎の村です。昭和40年代上野村には、約4,000人の人口があり、林業と農業が主産業でした。

しかし、このころ日本では外国からの木材輸入が始まり、輸入取扱高が石油について第2位となりました。安い外国産木材が市場から求められた結果、木材の売り上げが減り、仕事も就業の場所もなくなりました。これをきっかけに住民は職を求めて村の外へと離村していきました。昭和40～50年の10年間で、約1,200人の人口が減少していったのです。

村では、この人口減少を解決するため昭和40年代に雇用・人口対策を開始します。昭和43年に国民宿舎やまびこ荘を設立し、雇用の場を確保すると同時にIUターン政策へのりだしていくこととなります。

以降、村ではIターン者を受け入れるため



木質ペレット燃料を製造する工場

にさまざまな雇用の場を生み出していきます。既存の上野村森林組合、上野村農業協同組合に加え、第三セクター（株）上野振興公社の設立、上野村での直営事業（きのこセンター・森の菓子工房・村営そば店福寿庵）がIUターナーの受け皿となっていきます。

さらに、就業場所だけではなく、生活の場所として村営住宅の建設にも着手していきま。平成5年には、新羽集落に「新羽ふるさとハイム」を建設し、現在では限界集落対策の観点から村内の15か所に村営住宅があり、子供たちの声が集落到にひびくようになりました。

今では雇用と生活の場所の整備とともに、各過疎地域でさかんに行われている少子化・定住化対策の先がけといえる取り組みも始めました（表参照）。なかでも、少子化対策には力を入れており助成が充実しています。

定住対策としては、おもに「後継者定住対策」として生産年齢人口の高い村づくりをかかげる取り組みをしています。

このような、少子化・定住対策の取り組みが成功をおさめた結果、高齢化率40%台、年少人口の割合も9%台を維持するなど過疎化率が低下し年少人口の割合が増加しました。

### 今後の村の将来に向けての夢、課題

「村が一つの自治体として残ること、それがかなわなくなる時代が来るならば地域とし

て上野村を存続させることが重要」と上野村は考えています（上野村：神田村長談）。そのためには、住民が生活できる産業基盤をつくるのが一番重要です。そして産業基盤は持続可能でなくてはなりません。

持続可能な産業基盤の柱は二つと考えています。一つは、山林資源をいかした循環型産業システムを完成させること。二つ目には、観光交流産業のしくみをつくることにあります。

化石燃料の枯渇が不安視される現在、山林資源は大きな可能性を秘めていることに気づいたのです。なぜなら、森はしっかりとしたサイクルで管理をすれば持続的に供給可能なエネルギー源となるからです。

現上野村村長の神田村長の就任以降、木質ペレット工場をつくり、村内のエネルギーを化石燃料と木質エネルギーで併用するというスタイルをつくっています。木質ペレットは家庭用のみではなく、事業用としても使用します。また、温泉施設のボイラー燃料や公共施設の暖房燃料として、そして菌床のキノコ栽培の温室の熱エネルギーとしても活用されています。さらに今後は木質ペレットを燃料に木質バイオマス発電事業に取り組もうとしています。

観光交流産業も雇用や経済のしくみをつくることに欠かせません。今後日本の産業の基盤には海外との観光交流事業がすべてのファクターになるうえで、上野村も日本国内から世界の人々まで幅を広げて交流のしくみをつくらなければなりません。

その一環として利根川源流域の一地域である上野村では、上流と下流の市町村、団体との交流システム利根川ネットワークを設立し、埼玉県行田市や千葉県習志野市との健康をテーマにした観光交流を行っています。

また、教育旅行にも力を入れ、千葉県松戸

表 上野村のおもな定住支援制度 \*それぞれに要件等があります。

対 策		内 容
少子化 対策	へき地保育所保育料	保育料月額2,000円
	給食費（保育所～中学校）	無料
	医療費（高校生まで）	無料
	誕生祝金（満1歳）	3万円支給
	養育手当（6か月以上住民であることを条件に第3子目以降対象）	月額1万円支給
	入学祝金（小または中学校入学時）	3万円支給
後継者 定住対策	生活補助金（2年目以降対象。前年所得が150万円以下）	1世帯あたり月5万円・独身者月3万円支給
	結婚祝金（上野村後継者）	20万円支給

市・佐倉市、埼玉県三郷市の小学校32校が林間学園で上野村での2泊3日の自然体験活動を行っています。さらに、世界遺産の富岡製糸場をもつ富岡市や近隣市町村の文化資源と上野村をはじめ神流川流域の市町村の自然体験を連携させる教育旅行誘致の協議会も設立する予定です。

上野村は大観光地ではありませんが、自然や文化をいかしたプログラムをつくることによってその土地でしか体感することのできない感動を売りに観光交流産業を進め、地域に経済効果を生み出し、雇用場所の創設をしていくことができます。

課題はやはり、いかに就業人口を増やすことができるかです。

2050年には日本の総人口が8000万人、高齢化率40%台となるといわれる社会情勢のなか、都市部と競争して山村での働き手を確保するためにはなみなみならぬ知恵と努力が必要となります。

明るいきざしは、現在のの上野村にはIターンが人口の17%、定住率も安定しています。また、山村には都市にはない経済的資源と生活の豊かさがあります。

上野村ならではの経済システムをつくり、人々が豊かに、健康にらせる村、地域をつくるのが重要です。